

〔日薬理誌, 73, 797 (1978)〕

**Effect of α -mercaptopropionylglycine (α -MPG) and sodium dipropylacetate (DPA) on antibody formation (III).
Mechanisms of the immunostimulative activity.**

HIROSHI MORI, HIROICHI NAGAI, AKIHIDE KODA

α -Mercaptopropionylglycine (α -MPG) および Sodium dipropylacetate (DPA) の抗体産生におよぼす影響 (第3報)

—免疫促進作用機序についての検討—

森 裕志, 永井博式, 江田昭英

α -Mercaptopropionylglycine (α -MPG) および sodium dipropylacetate (DPA) の免疫促進作用機序について検討した。

- 1) マウス腹腔 macrophage の墨粒貪食能は in vitro で α -MPG の高濃度によって促進されたが, DPA では影響がみられなかった。
- 2) ヒツジ赤血球でマウスを免疫し, 3日後に脾細胞を分離して24時間培養した。両薬物は残存細胞率および生細胞率に影響を及ぼさなかったが, α -MPG は hemolytic plaque forming cell 数を増加し, DPA は増加の傾向を示した。
- 3) 両薬物は phytohemagglutinin-P および lipopolysaccharide による脾細胞の幼若化に影響をおよぼさず, また, マウス脾細胞に対して mitogenic activity を示さなかった。
- 4) マウスの抗 polyvinylpyrrolidone 抗体産生における初期の抗体価に対して両薬物はほとんど影響をおよぼさなかった。